



防災について考える時間

未曾有の大災害となった東日本大震災が発生した2011年3月11日から、今年で11年となりました。

一人ひとりが非常時に生き抜く力を高めること、助け合えるコミュニティづくりをすすめること、地域・専門職が参加したリアリティのある訓練に取り組むこと等が大事であることが、東日本大震災の被災地から発信されているところで、これらの教訓は風化させないようにしたいものです。

今号では、シニアの方々が日頃からどのように備え、地域でどのような役割を果たしていくのか等について、専門家からの助言を紹介します。

もくじ

- 02. シニアと防災
- 03. 自衛隊はあなたの身近な存在
自衛隊滋賀地方協力本部
- 04. 気象特性と気象・防災情報の見方
- 05. 災害は正しく恐れて、日常は楽しく過ごす
彦根地方気象台
- 06. 災害は正しく恐れて、日常は楽しく過ごす
京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻
准教授 南 多恵子さん
滋賀県レイカディア大学 第44期学生募集
- 07. アクティブシニアをめざす短期講座 写真アカデミアに参加して
森下 美津子さん

自衛隊は、あなたの身近な存在

シニアと防災

近年、全国各地で地震や風水害等の自然災害が頻発しています。

滋賀県は、災害が少ないと思われがちですが、運用以来全国初の特別警報となった平成25年の台風18号では、大津市・甲賀市・高島市等に大きな被害が発生しました。また、平成30年の米原市の竜巻では140棟の住宅被害が発生しました。そして、この年末年始にかけては、県内東北部が豪雪となり、私たちの生活を脅かしたのは記憶に新しいところです。

滋賀県は山地が多い地域で、多くの断層が検出されています。中でも、「琵琶湖西岸断層帯」と「鈴鹿西縁断層帯」は被害が大きくなると予想されています。ま

た、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されており、死者が最大470人・負傷者数が最大1万人の人的被害、全壊棟数1100棟の建物被害、全県域での停電が予測されています。(南海トラフ巨大地震(陸側ケース)による被害概要)

琵琶湖に流れ込む一級河川が120本近くあり、それぞれに支流がいくつもあることから、河川の氾濫の危険性が高く、滋賀県は決して、災害リスクが低い地域ではありません。

このような状況を踏まえ、今号では、シニアの方々が日頃から災害にどのように備え、避難と避難生活の準備をどのようにすればよいのかについて、各専門家から話をうかがいました。

滋賀県地域防災計画(震災対策編)

滋賀県周辺の主な活断層※滋賀県地震防災ブックより



平成30年の米原市の竜巻被害



年末年始の豪雪



彦根市では、県内外から多くのボランティアが結集し、新学期からの通学路の除雪活動を行いました。県最北部の余呉町中河内でも、大雪になりました。中河内集落と長年交流を深めている十河第一さん「年末年始の大雪は、彦根では災害に近い状況でしたが、この集落では日常の光景です。地域によって、また世帯によって雪の捉え方は違うのもです。」

平成25年の台風18号 高島市



▲滋賀県のホームページより

全国の様々な被災地で、自衛隊の方々が活躍されている報道を目にすることがあります。自衛隊の災害救助活動とシニアの災害の備えについてお話をうかがいました。

自衛隊の災害救助活動の役割と体制を教えてください。

自衛隊は国防が主たる任務ですが、災害発生時は都道府県知事等の要請に基づき隊員を派遣することを原則とし、被災地では人命救助等に取り組んでいます。

発災時は、号令がかかれば速やかに出動できる部隊が当番制で決まっています。その後の被災規模や状況によって、運用される部隊が定まってきます。

平時から県や市町の訓練に参加し、派遣訓練等を行っています。また、地域防災計画策定の際には、これまでの救助経験を生かして助言等のアドバイスもしています。

人命救助の現場はどのようなものですか。

人命救助は72時間が勝負です。派遣先との距離も考慮する必要があり、数か月車中泊やテントで寝泊まりすることもあり、肉体的にも精神的にも辛いのは事実です。

中でも、隊員のクールダウンには最大限配慮しています。グループで話し合う機会を設けたり、部隊の入れ替えを行う等、様々な工夫をしています。

勿論救命第一ですが、それが叶わなかった時に、遺品等を発見し、思い出の品がご遺族のもとへ届けられ、感謝の手紙をもらった時は、少し救われた気持ちになります。

豪雪時はどのような活動をされていますか。

部隊を動かすには、要請が必要で、年末年始の県東北部の豪雪では、要請はありませんでしたが、連絡員は派遣していました。

自衛隊は除雪機がなく、マンパワーによる救助活動となります。

近年は、減災活動にも力を入れているとお聞きしていますが。

小中学校の防災教育や地域の防災講座に隊員を派



▲自衛隊滋賀地方協力本部の皆さん

遣し、自衛隊の災害救援活動や平時の備えについて、話をしています。(出前講座)

また、防災士の方々に、土嚢の積み方講習を行ったこともあります。

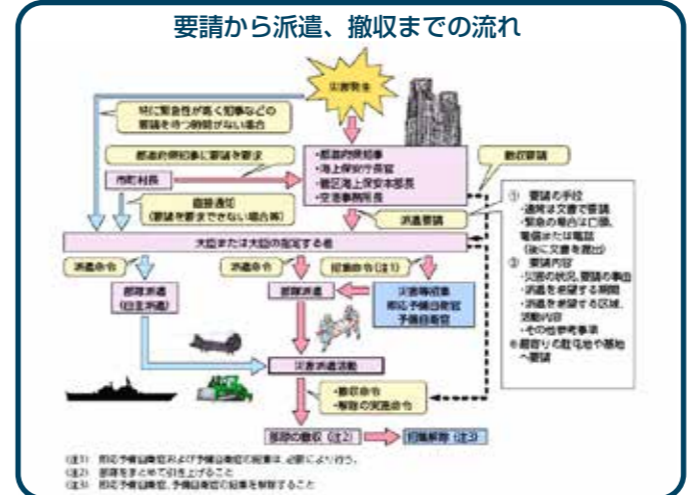
自衛隊の活動を知ること、興味を持ってくれる子どもさんがいてくれると嬉しいです。

シニアの方々の備えの留意点を教えてください。

非常時持ち出しリストに記載されているような保険証や持病薬等は、必ず備え、持ち出せる準備をしておいてください。薬はこちらで準備できても、アレルギーのことなどはわからないので、お薬手帳のコピーが大事になってきます。個人的には、ヘッドライトは両手があくのでおすすめです。

また、自宅と避難所までのハザードマップを確認しておくことや、地域コミュニティの力を高めておくことで地域の防災力が格段に上がります。どこの家に誰が住んでいるのかわからない地域だと、救助するのにも大変な労力がかかります。

日頃から、災害への備えや発災時の行動のイメージをしていただき、シニアの方々に必要な防災知識を習得し、一人ひとりにあった減災対策をしてほしいと思います。身近に自衛隊の災害支援活動がある事を知ってください。



防災チェックリスト一例 (Example of Disaster Check List) with columns for '災害・避難確認' (Disaster/Evacuation Confirmation), '非常持ち出し品一例' (Example of Emergency Kit Items), and '外出時に持参したいもの一例' (Example of Items to Carry When Going Out).

▲内閣府 HP より

天気予報でおなじみの気象庁は、国の防災機関のひとつでもあります。防災において、気象庁はどのような役割があるのか、また、自治体からの発表とどのような違いがあるのか等について、彦根地方気象台でお話をうかがいました。

Q.台風接近や大雨予測の時に、「警戒レベル」という言葉を耳にしますが、どのような行動をとるべきなのでしょうか。

A.わかりやすく言うと、災害発生の時にとるべき行動を、住民が理解するための情報です。「警戒レベル1・2」は気象庁が発表し、「警戒レベル3・4・5」は市町村が発令します。

- ※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3に相当します。
- ※2 警報に切り替える可能性については、市町村ごとの警報・注意報のページで確認できます。

Q.大雨警報や大雨注意報の基準について教えてください。

A.大雨警報や大雨注意報の基準は、市町村の過去の災害データに基づいて決めており、全国の市町村で違います。例えば、高知県は地形がお椀状で、南側には太平洋があり、北側には四国山地があります。太平洋側から湿った空気が流れこんでくると、大雨になりやすいのですが、同じ量の雨が降っても滋賀県の市町と比べると災害の発生は少なく、注意報や警報の基準は高いのです。注意報、警報の基準は、毎年見直しております。例えば、災害発生後、河川の改修が行われれば、基準は変わってきますので、市町へ聞き取りを行っています。このようなことから、注意報、警報は市町村ごとに発表しています。ご自身の住まいが、どのような場所にあるのか、どこが危険か、知っておく必要があります。普段からの、災害に対する備え、気象台が発表する防災気象情報や気象庁のホームページの『キキクル』などを活用していただくようお願いします。

Q.滋賀県は大雪の心配もありますが、どのような情報を発信されていますか。

A.大雪に関する防災気象情報等を発表しています。また、報道機関、滋賀県や市町、国道事務所などの防災機関に気象解説も行っています。なお、注意報や警報は、基準に達すると予想されたときに、避難や防災対応をとっていただく時間等を考慮して発表しますので、いつから注意や警戒が必要なのか、どんなことに気を付けるのか等、内容を確認していただくようお願いします。



▲屋上からみた気象観測装置

Q.『キキクル』について、教えてください。

A.大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる「危険度分布」が「キキクル」です。また、土砂災害、浸水害、洪水の危険度分布については、それぞれ以下のとおりとしています。

大雨警報(土砂災害)の危険度分布⇒土砂キキクル 大雨警報(浸水害)の危険度分布⇒浸水キキクル 洪水警報の危険度分布⇒洪水キキクル

危険度を10分ごとに更新し、土砂災害、浸水害、洪水災害の危険度を5つの色分けで地図上に表しています。市町村では、キキクルや防災気象情報を避難情報発令の判断に活用しています。山地と河川の近くでは全く状況が異なります。市町では、気象台から発表された防災気象情報などを基に、土地の特性に照らし合わせて避難情報発令を判断して、市町長が発令します。

なお、気象台ではZOOM等を活用して、オンライン気象解説を行うこともあります。

Q.彦根地方気象台の平時の取組を教えてください。

A.彦根地方気象台は、26名の職員が働いています。平時には、台長による首長訪問や担当者が市町を訪問して、打合せや大雨の後の振り返りを行ったりしています。また、地域防災計画の修正や、防災訓練に参加したり、気象災害時の防災対応等を疑似体験する気象防災ワークショップなども開催しています。各市町の地域防災リーダー等への出前講座も行って防災気象情報の普及啓発を行っています。



▲彦根地方気象台

Q.NHK「連続テレビ小説おかえりモネ」の影響で気象予報士が注目されていますが。

A.「おかえりモネ」は民間の気象会社の話でした。気象庁では「あなたのまちに気象防災アドバイザーを！」ということで、気象庁が委嘱した「防災の知見を兼ね備えた気象の専門家」として、気象防災アドバイザーが市町村のニーズに合わせた活動を行っています。現在は全国で80人くらいの方々が活躍していますが、残念ながら現在滋賀県にはおりませんので、気象庁では気象防災アドバイザーを増やす取組を進めています。

最後に、大雨が予測される場合の備えについて、助言をお願いします。

大雨が予想される場合は、普段からの備えをしっかりとしていけば、いざというときに対応できます。避難経路はどこか、どこに逃げたらよいかを家族で相談することや河川の氾濫に備えて、2階の部屋に寝るとか、工夫して日頃から備えておくとういでしょう。

災害は正しく恐れて、日常は楽しく過ごす

京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻 准教授 南 多恵子さん



私たちは数々の経験から、災害はいつ何時起きるかわからない—このことは身に沁みています。喉元過ぎれば熱さを忘れるといいますが、日頃からの備えが大事だということは言うまでもありません。

自衛隊、気象庁からのアドバイスは、まさにその重要性を教えてくださいました。注意報、警報、警戒レベルなど、各機関が発表する情報を正しく理解しておく必要があります。そのうえで、どのような場合にどのように避難するのかなど、日頃から家族や地域

で話をしてルールを決めておきましょう。そのうえで、災害の新しい情報やツールにも関心を持ち、防災についてコミュニティの皆さん同士で学んだり、訓練の機会にもぜひ参加していただきたいと思います。

災害を正しく恐れて、日常は楽しく過ごす。アクティブシニアの皆さんには、自身と家族の命を守ることは勿論のこと、地域の力にもなってもらえたらと思います。

レイカディア
美術展
準備講座

『写真を作品に仕上げたら…』⇒『滋賀県レイカディア美術展※に出品!!してみよう』

※「滋賀県レイカディア美術展」は、滋賀県シルバー作品展より名称変更となりました。

アクティブシニアをめざす短期講座 写真アカデミアに参加して

森下 美津子さん

写真を撮る機会が増え、一度習ってみたいなぁと思っていた矢先、本講座の案内をいただき、飛びついて受講しました。今までは家族写真や旅行の記録写真ばかりで、「作品に仕上げる」とはどのようなことなのか!興味津々です。

講座初日です。受講者の皆さんはカメラ歴の長い方が多いようです。露出とは、シャッター速度は、絞り(F値)……などなど詳しく教えていただきました。

そして、深野先生の作品を鑑賞しながら説明を受けました。写真はカメラのテクニックだけではなく、経験と技術と感性かなと思ってきました。

さて、午後からは先生に教えていただいたことを基に、びわこ文化公園で「撮影会」です。

知識が増えたせいか、いつもと違う対象物を写している自分に気づき、ひとり笑いです。

となりの受講者の方が、「写真は俳句と同じですね。どこを切り取るか、どこに光を、いつ撮るかそれぞれの感性で表現が違い、同じものはないですね。」とおっしゃいました。なるほど、私も同感です。草も花も木も山も川も同じ日はないのです。どこをどう切り取って表現するのか、感性が問われそうです。次回は写真を提出しなければなりません。取り敢えず、提出用写真3枚確保できました。「あるある凡人」でシュ

レッターにかけられるのか!「才能あり」でワンランク昇格か!TVの俳句番組の状況になってきました。

2日目の講座は、2Lサイズに現像した作品5枚を提出し、みんなで鑑賞です。さすがシニアの皆さんです。それぞれに個性ある作品が並んでいます。この時点で私の作品は「あるある凡人」決定です。しかしながら先生の寸評もお聞きしたく思いました。

各自2枚選んでスクリーンにアップで映していただき評価していただくことになりました。

「主役はどれ?」「季節感も入れて」「どこを切り取るか」「水面は広く」「冬の影、夏の影」……等々、感性が問われます。

今回の講座は「滋賀県レイカディア美術展準備講座」とあります。「あるある凡人」から脱出のスタートのきっかけとなった本講座。「滋賀県レイカディア美術展」応募締め切りは5月31日です。アクティブシニアを目指して応募だけでもしてみようと思います。まだ間に合います。とにかく色々勉強と思ってたくさん写して見ます。何に気づくか!どこを切り取るか!余韻はあるか!……

果たして、「写真を作品に仕上げる」ことが出来るでしょうか。挑戦です。



▲深野二朗先生の講義



▲びわこ文化公園にて「撮影会」



▲各受賞者の「作品鑑賞会」

滋賀県レイカディア大学 第44期学生募集 (2022年10月入学)

対象 県内に居住または通勤し、60歳以上(2022年10月1日現在)で、大学設置の趣旨を理解し、学習意欲に富み、通学および各種講義に出席しうる健康を有する方で、卒業後、大学の学習成果を生かした地域活動等に意欲がある方。

学習期間 2年間

定員 草津キャンパス145名、彦根キャンパス70名(リカレントコース含む)
※2022年10月よりレイカディア大学は草津キャンパス(草津校名称変更)、彦根キャンパス(米原校移転)で開校します。
(草津キャンパス住所)
〒525-0072 草津市笠山7-8-138 県立長寿社会福祉センター内
(彦根キャンパス住所)
〒522-0074 彦根市大東町2-28 アルプラザ彦根4階 COZY TOWN(コージータウン)内

募集要項(願書)配布先 滋賀県レイカディア大学事務局、県内の市町高齢者福祉担当課、市町社会福祉協議会、公民館、図書館など。
また、びわこシニアネットホームページ(HP <http://www.e-biwako.jp/>)からもダウンロード可。

申込方法 郵送/持参

申込期間 6月1日(水)~7月29日(金)(※郵送の場合7月29日必着)

授業料 各学年 前期25,000円、後期25,000円〔年額50,000円〕(教材費、傷害保険料、見学・研修の経費および自主活動等に要する経費等は自己負担、彦根キャンパスの駐車場は2時間以上有料)

お問い合わせ 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 滋賀県レイカディア大学事務局
〒525-0072 草津市笠山七丁目8-138(県立長寿社会福祉センター内)
TEL 077-567-3901

滋賀県レイカディア美術展へのご案内

展示会場・会期 ◆ピバンティ彦根2F(出品全作品を展示)
令和4年6月9日(木)~6月13日(月)
10:00~17:00(最終日は14:00まで)

◆イオンモール草津2F(入賞・表彰作品を展示)
令和4年6月15日(水)~6月20日(月)
10:00~17:00(最終日は16:00まで)

作品の事前申込み受付期間 令和4年5月9日(月)~5月31日(火)

※「事前出品申込書」は、ホームページからダウンロードが可能です。

皆様ふるってご応募ください!

お問合せ
申込先

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
レイカディア美術展事務局
〒525-0072 滋賀県草津市笠山七丁目8-138
(滋賀県立長寿社会福祉センター内)

TEL. 077-567-3900
FAX. 077-567-3906
MAIL: lacadia@shigashakyo.jp
<http://e-biwako.jp/nenrinn>

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		×	○	
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは
こちら



(ふくしの保険
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763
受付時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。